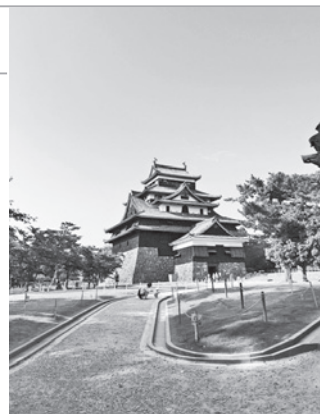




楽しいお城の登りかた

会員 全 未来 (68期)



1 学生の頃からお城が好きで日本各地のお城巡りをしており、先日も、鳥取県にある大山に登った後、3度目となる松江城を訪れました。

さて、お城をどのように楽しむか、ですが、私の場合、主に①石垣、②櫓、そして、③石落（いしおとし）の三か所で妄想をしながら登城します。

2 (1) まず、石垣については、石垣が積まれた当時に想いを巡らせませす。

重機もない時代に人の力で一つずつ運び、積み上げ、広大な石垣を作り上げたという事実に、当時の苦勞を偲び、当時のままの石垣から、技術の高さを知り、胸がジーンとなります。

また、石垣では、石の加工方法や積み方を見ることも楽しみの一つです。特に、写真の松江城は、天空の城で有名な竹田城の築城にも携わったとされる石垣職人集団の“穴太衆”による石垣であり、それだけでもわくわくしてしまいますが、加工せず自然のままの石を積み上げる“野面積み”と平面を加工し接地面を増やした石を積む“打ち込みハギ”とを同時に見ることができる上、天守の石垣に石を割るための“矢穴”の跡を確認でき、「本当に人力で作っているのか！」と実感できるのでおすすめです。

石垣は、基本的に時代が下るにつれ隙間なく積まれるようになりますが、中には時代に逆行して、あえて自然石を使って石垣を築いた大名（細川忠興）もあり、他の藩が野面積みを真似しに偵察に行った、といった逸話が残っているのも魅力です。

(2) 次に、櫓では、お城を攻める雑兵になって天守へ向かうと非常に楽しむことができます。

とりわけ、櫓で囲われた枳形（四角）の空間を作り、二箇所門を設ける“枳形門”は、お気に入りスポットです。枳形門は、一つ目の門を突破した後

二つ目の門を突破するまでの間に角度を変えなければならないように設計されているため、折れ曲がる角でもたついたり、次の門を突破しようとしている間に、四方から鉄砲や矢の雨が降り、敵を一網打尽にできるようになっています。そこで自分や自分の妄想した仲間たちが（脳内で）倒れていく。こんな妄想しながら登っていると、一人でも感情が高ぶってきます。近隣ですと、桜田門をはじめ江戸城の門で、妄想滅滅体験が可能です。

(3) ここでようやく天守に登り、“石落”での楽しみ方をご紹介します。

石落は、床よりも外側へ30cmほど突出させた部分に、蓋つきの穴を設け、室内から真下の敵を攻撃するための設備です。天守には攻められやすい四隅によく設けられています。

攻撃方法は、名前のとおり、少なくとも石を落としていたことが窺われます（火縄銃で攻撃することも考えられますが、真下を狙うと火薬皿から火薬がこぼれてしまうため、難しいと思われます）。さて、それ以外は何で攻撃していたのか。ここが妄想ポイントですが、ここでは、おかゆを柄杓ですくっては掛け、すくっては掛け、というおかゆ係を担当する、という設定で盛り上がります（“おかゆ係”は個人的につけた名称にすぎない）。おかゆは粘度が高く高温を維持しやすいため、壁に登る敵を倒すのに効果的であると、どこかのお城で聞いてからは、私の中でおかゆ係の妄想は鉄板になっています。

3 もし、石垣に興味を持たれたなら、石を割るのを途中で諦めた矢穴の残る萩城や武者返しが痺れる熊本城へ、櫓が気になったら、丸や三角の鉄砲や矢を放つために設けられた“狭間”を確認できる姫路城へ、足を運び、ぜひ、架空の戦友とともに登城してみてください。